

平成29年度 地域連携活動報告書

|        |   |      |                    |
|--------|---|------|--------------------|
| 連携先名称  | 津野町   | 担当教員 | 地域創成科学科 宮林茂幸       |
| 活動状況   | 継続中   | 関連教員 | 入江 彰昭、谷岡 農山村支援センター |
| 協定締結日  | 2016/7/26   | 活動資金 | 補助金                |
| 活動内容   | <p>地域創成科学科では、学生と地元農家との連携交流を通じて、棚田の風景保全の管理体制の構築を進めている。同時に、棚田のグリーンインフラとしての価値、棚田の暮らしの知恵と技を明らかにするため、1)水管理システム、2)地形地質と土地利用、3)気象と雨水貯留、4)棚田の暮らしの知恵と技術、5)景観計画の視点で調査研究を進めている。</p> <p>農山村支援センターでは、農林水産省補助金「山村活性化交付金事業」の交付申請等をサポートして資金を確保。同事業を活用して、津野産材を活用した木育商品やクラフト商品の開発と、耕作放棄地対策として栽培するサトイモを利用した特産品の開発を進めている。</p>   |      |                    |
| 活動成果   | <p>地域創成科学科事業では、本年度は、水路清掃、田植え、稲刈り、棚田キャンドル祭りの活動をおこない、その活動成果を生かし、棚田（貝ノ川集落）の風景保全の管理体制を可視化できるようにホームページを作成している。また、棚田のグリーンインフラとしての価値、棚田の暮らしの知恵と技を明らかにするため、農家ヒアリング、気象観測、ドローンによる3D景観調査をおこなってきた。</p> <p>山村活性化交付金事業では、木をテーマとした取り組みでは、地元木材産業関係者とともに、レーザーカッターを利用したクラフト製品、マルシェ、見本市等で利用するディスプレイ機材など今までに無いジャンルの商品の試作が進められている。サトイモについては、サトイモスープの試作が終了し、市場調査と販路開拓の作業に取り組んでいる。</p> |      |                    |
| 課題・改善点 | <p>地域創成科学科では、棚田（貝ノ川集落）のホームページを開設し、参加協働型の棚田風景の管理体制を構築を目指すこととしている。また、水管理システムを明らかにするために、水路の現地測量、気象調査と棚田減水深調査、棚田の暮らしの知恵と技、それら調査結果を踏まえた景観計画を作成することとしている。・山村活性化交付金事業は、2か年目に入り、今後は販路開拓へとつなげるための見本市等への出店等のPR活動の展開とそのための体制づくりが課題である。</p>   |      |                    |